旧赤星邸便り

第１号（感謝御礼・活動報告号）

２０２２.4.17　武蔵野啓明会

旧赤星邸が市民皆様のものになりました！（上）旧赤星邸表玄関（北東）写真家清水襄氏撮影
（下）庭の藤棚（２０１９年渡邉愛子シスター撮影）

トピックス　カトリック・ナミュール・ノートルダム修道女会から建物などが寄付されました

カトリック・ナミュール・ノートルダム修道女会 代表役員東海林光子様から建物（吉祥寺本町４丁目）などの寄付をいただきました。この建物は昭和９年にアントニン・レーモンドの設計により個人住宅として建てられたものであり、その歴史的・文化的価値を踏まえるとともに、緑豊かな環境を次世代に継承するため保全・活用を図ります▶問：管財課☎60-1816、資産活用課☎60-1973

（左）令和３年４月１日武蔵野市報【保存会の尽力で取得したドコモモジャパン選定建築物プレートを修道女会代表東海林光子シスターが武蔵野市長へ贈呈】

２０２１年２月、土地は購入、建物は寄贈で、武蔵野市へ所有権が移転しました。ひとえに約７千名筆のご署名を頂いた皆様のお陰と厚く御礼申し上げます。私たちの活動を皆様に報告し、旧赤星邸が武蔵野市の新たなシンボルとして、皆様が広く参加・活用できる場となるように、保存会は武蔵野啓明会と改名して活動しています。文化財である旧赤星邸には、修道女会が修練棟と聖堂を付属させ、いずれも現存する多人数の宿泊ができる施設です。大学の多い街並みを活かし、例えばウクライナの学生受入れなど、国際協調的な活用も考えられる、多様性のある武蔵野市公共施設です。

旧赤星邸（正式名称は『旧赤星鉄馬邸』（A.レーモンド１９３４年竣工））について

旧赤星邸は、成蹊学園正面にある敷地約４千㎡以上の庭と建物です。建物は、日本近代建築の父アントニン・レーモンドが設計し、１９３４年に竣工した日本のモダニズム邸宅で最初期の鉄筋コンクリートの建物です。世界でも最初期であり、当時世界でも珍しいコンクリート打放しであり、鉄筋コンクリートの外壁で皆様に御馴染みです。戦時中は陸軍、戦後は進駐軍（ＧＨＱ）に接収され、１９５７年から、カトリック・ナミュール・ノートルダム修道女会の東京修練院として活用され、同年の最初の修練女は、『置かれた場所で咲きなさい』などがベストセラーとなった渡辺和子シスターです。その後東京修道院ともなり、本部ともなりました。レーモンドの作品集で最多の頁数であり代表作ですが、著作で「壊された」と書かれたので、存在しないと考えられていた「幻の邸宅」です。武蔵野啓明会が普及活動を行ったので、建築家、建築史家等皆様の知るところになり、保存活用活動が勢いづきました。

この父ありて　渡辺和子

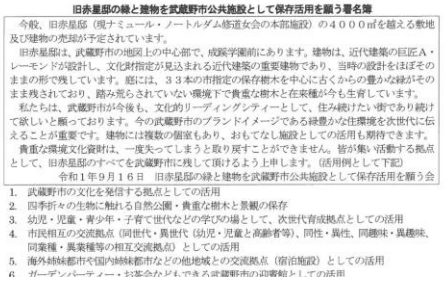
悲劇の一部始終見守った娘

詩歌教養

（左）アントニンとノエミ・レーモンド夫妻。軽井沢夏の家。
（中左）旧赤星邸南側・竣工時・雑誌「東京人」330号から引用。芝庭で、手前はゴルフ練習用バンカー
（中右）レーモンド建築設計事務所（1935年）。旧赤星邸の担当は筆頭所員杉山雅則、構造は小野禎三、内装はノエミ。ル・コルビュジエの下で２年働いた前川國男が帰国後レーモンド事務所で５年間勤務し、「ディテールや現場を非常に大事にしており、ル・コルビュジエと正反対だった。赤星邸ではコンクリートに空洞を生じないよう所員一同大変苦労した。非常に貴重な勉強だった。」と述懐。モダニズム木造建築の吉村順三、木造家具で世界で一世風靡したジョージ中島ら近代デザインを担う人材輩出。（右）日経新聞

令和元年８月７日　修道女会理解を得て、署名活動開始

修道女会は、岡山・広島等で教育活動をしており、東京は神学等を学ぶ場でしたが、２０１１年にその役目を終え、東広島への本部移転が決まりました。弁護士竹内雄一は、同会から相談を受け、豊かな緑と文化資産の揃った環境を次世代に引き継ぐべく、竹内雄一・同矩子会員が最初の署名簿を作成。


旧赤星邸の緑と建物を武蔵野市公共施設として保存活用を願う署名簿

今般、旧赤星邸（現ナミュール・ノートルダム修道女会の本部施設）の４０００㎡を越える敷地及び建物の売却が予定されています。

旧赤星邸は、武蔵野市の地図上の中心部で、成蹊学園前にあります。建物は、近代建築の巨匠Ａ・レーモンドが設計し、文化財指定が見込まれる近代建築の重要建物であり、当時の設計をほぼそのままの形で残しています。庭には、３３本の市指定の保存樹木を中心に古くからの豊かな緑がそのまま残されており、踏み荒らされていない環境下で貴重な樹木と在来種が今も生育しています。

私たちは、武蔵野市が今後も、文化的リーディングシティーとして、住み続けたい街であり続けて欲しいと願っております。今の武蔵野市のブランドイメージである緑豊かな住環境を次世代に伝えることが重要です。建物には複数の個室もあり、おもてなし施設としての活用も期待できます。

貴重な環境文化資財は、一度失ってしまうと取り戻すことができません。皆が集い活動する拠点として、旧赤星邸のすべてを武蔵野市に残して頂けるよう上申します。（活用例として下記）

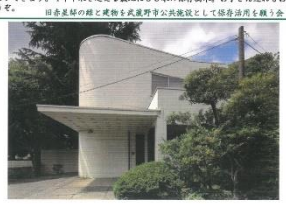
令和１年９月１６日　旧赤星邸の緑と建物を武蔵野市公共施設として保存活用を願う会

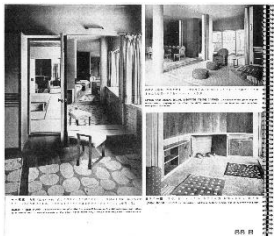
1. 武蔵野市の文化を発信する拠点としての活用
2. 四季折々の生物に触れる自然公園・貴重な樹木と景観の保存
3. 幼児・児童・青少年・子育て世代などの学びの場として、次世代育成拠点としての活用
4. 市民相互の交流拠点（同世代・異世代（幼児・児童と高齢者等）、同性・異性、同趣味・異趣味、同業種・異業種等の相互交流拠点）としての活用
5. 海外姉妹都市や国内姉妹都市などの他地域との交流拠点（宿泊施設）としての活用
6. ガーデンパーティー・お茶会・子どもたちが集う武蔵野市の迎賓館としての活用

令和元年９月１６日、署名活動を開始。修道女会は、アメリカの同会の善意の寄付を旧赤星邸の譲受資金としたので、移転後は広く皆様のために活用頂きたいという思いがあり、令和元年８月に総会で修道女会の皆様から署名頂き、建物を寄贈する意向を示されました。同年９月１６日、皆様のご協力で、保存会の体制を整えました。

令和元年１１月２２日　一般見学会、渡邉愛子シスター・三浦敏伸所長・当職講演会

渡邉愛子シスター、レーモンド設計事務所三浦敏伸所長にお話し頂き、平日雨天の僅か３時間の公開にもかかわらず、赤星氏ご家族を始め２４７名にご参加頂きました。マスコミ各社にも予め声をかけ、「幻の邸宅」が現れたと大きな話題になりました。





三浦所長を囲んで保存会（竹内矩子会員撮影）

（上）毎日新聞
（中上）見学会チラシ
（中下）ANTONIN LAYMOND（城南書院 1935年）竣工時写真
（右）東京新聞

令和元年１２月２６日　ドコモモジャパン現地調査案内・渡邉代表近代建築講演会等

保存会は、旧赤星邸の価値の公定としてドコモモ認定を第２の活動基軸としました（ドコモモは後述）。ドコモモジャパンの現地調査を誘致し会員で案内しました。渡邉研司代表に近代建築講演、院生にレーモンド建築『不二家』講演を頂きました。

旧赤星鉄馬邸（武蔵野市）

旧赤星邸は米国人のアントニン・レーモンド（一八八八～一九七六年）が設計した昭和初期の鉄筋コンクリート造住宅。「直方体と円筒形という造形の組み合わせや連続窓の規則性、コンクリート打ち放しの無装飾性は国際様式建築の特徴。同時期のモダニズム建築で、このような大規模住宅が現存しているのはまれ」と評価した。

ドコモモは「わが国における学校建築の中でも一つの理想を実現させた重要な作品群」と評価した。

旧赤星鉄馬邸で昨年暮れに行われたドコモモ・ジャパンの現地調査＝武蔵野市で

（左）現地調査団と保存会（竹内矩子会員撮影）。案内後、渡邉研司代表に保存会会員向けに近代建築をご講演頂きました。（上）東京新聞

令和２年１月２５日　与那原恵氏「消えた富豪 赤星鉄馬」出版記念講演会兼見学会

思いがけないことに、赤星鉄馬を扱った書物が先の一般見学会の直前に刊行されました。そこで、ただちに筆者に出版記念講演会を申し込み、見学会と合わせて開催する運びとなりました。午前と午後の２部構成で約３５０名の方々が来訪され、「幻の邸宅」に「幻の富豪」が蘇ったと大きな話題になりました。

（上）講演会チラシ
（右上写真）与那原恵氏と著書『赤星鉄馬　消えた富豪』（２０１９年１１月１０日、中央公論新社）
（東京新聞）
（右上２記事）東京新聞
（右手前）日経新聞
（右奥）与那原恵氏を囲んで保存会、渡邉愛子シスター（竹内矩子会員撮影）

令和２年２月１３日　武蔵野市と修道女会基本合意書調印式,記者会見,ライトアップ

基本合意書を武蔵野市と修道女会が締結し、今後本調印に向けて、活動することになりました。旧赤星邸を皆さんに知っていただく目的のため、旧赤星邸で記者会見を含め開催する運びになりました。武蔵野市役所外での市長記者会見は、初めてだったそうで、武蔵野市役職員の皆様のご見学など、会の全員で協力しました。新聞各紙の報道により、「**武蔵野市の英断**」が話題になり、ドコモモの研究発表会でも、大変な話題になりました。NHK の朝、昼のニュースでも全国放映されました。

NHK テレビ『おはよう日本』

週刊きちじょうじ

東京新聞

（上）朝日新聞
（右）左から、東京新聞、毎日新聞、読売新聞、会員によるライトアップ

令和２年９月２０日 ドコモモｼﾞｬﾊﾟﾝ選定建築物ﾌﾟﾚｰﾄ贈呈式・三浦所長記念講演会

基本合意書調印式直後、会の略称を保存会から武蔵野啓明会に改称。コロナ感染拡大防止自粛期間経過後、ドコモモｼﾞｬﾊﾟﾝ選定建築物ﾌﾟﾚｰﾄ贈呈式を企画しました。当会のこれまでの歩みを、芝生庭で会の皆様でﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ後、ドコモモｼﾞｬﾊﾟﾝ渡邊研司代表から渡邉愛子ｼｽﾀｰへ選定建築物ﾌﾟﾚｰﾄ授与。各地のレーモンド建築保存会や建築家・建築史家にお声かけしたところ、皆様が祝福に駆けつけて下さり、三浦敏伸所長が記念講演下さいました。（※）**ドコモモとは**、モダン・ムーブメントにかかる建物と環境形成の記録調査及び保存のための国際的学術団体。支部は世界約８０カ国。

（上）武蔵野啓明会のプレゼンテーション（竹内矩子会員撮影），

（中）ドコモモｼﾞｬﾊﾟﾝ選定建築物ﾌﾟﾚｰﾄ贈呈式。ZOOM と youtube で世界同時中継。アメリカのレーモンドの子孫らにとても喜んで頂きました。（右２枚）週刊きちじょうじ

（上・中）三浦所長記念講演の様子

（右）ﾄﾞｺﾓﾓｼﾞｬﾊﾟﾝ・保存会・ﾚｰﾓﾝﾄﾞ設計事務所・渡邉愛子ｼｽﾀｰ（写真家大石芳野氏撮影）

戦時中、国木田独歩のいう広域『武蔵野』は、東京で最も空襲の激しい地域でした。中島飛行機等の製作所があった為です。爆撃機 B29は原子力爆弾の容器に通常爆弾を詰め『武蔵野』に落とした翌日、原子力爆弾に詰め替え、広島に落としました。現在大国ロシアがウクライナに侵攻し「これが２１世紀か！」と驚く残虐な光景が連日伝えられています。狂気とも思える１人の野望から核兵器により世界中が滅び兼ねず、その様子が世界中に同時実況中継される状況が、歴史上初めて生じています。

中島飛行機武蔵製作所跡地全景（1954年）

戦争、３．１１で核に被爆した日本でも、もはや他人事ではありません。武蔵野啓明会は、これから会報を出します。皆で力を合わせて、政治・信条・宗教・人種・国籍・立場の違いを乗り超え、愛と平和のための取組みを１歩ずつ進めて行きましょう。旧赤星邸が人々の沢山の笑顔を生み、自然と人為が調和した『武蔵野の心』MUSASHINO ＨＥＡＲＴを表す場であり続けられる様、お力添え下さい。

連絡・入会先 銀座栄光法律事務所
弁護士 竹 内 雄 一
ginza-eikou@za3.so-net.ne.jp
090-7870-0839